

野川における外来植物の駆除活動について

平成27年12月 安達榮一

1 はじめに

外来植物と付き合うには、地味で、息の長い活動が必要と思います。キーワードは、①埋土種子、②都の草刈り（回数と時期）、③草刈りのない水辺の根気のいる手作業です。これまでの経過を振り返り、知りえた事実をできるだけ整理し、今後の活動の参考になるようにしたいと思い、まとめてみました。

2 これまでの経緯

①2007年9月に、初めて、野川の相曾浦橋から飛橋間でオオブタクサとアレチウリの除草を数回行った。

活動に当たって、河川管理者である北多摩南部建設事務所の了解のもとに行った。その時点では、自由採取のため問題はないとのことであった。

②2008年8月 外来植物駆除を目的として「みたか野川の会」が発足した。三鷹市社会教育会館市民大学総合コース「身近な水と地球環境（メイン講師は小倉紀雄東京農工大学名誉教授であった）」のクラスメート6名がメンバーであった。北多摩南部建設事務所に、年度の防除実施概要書を提出し、外来生物法に基づく防除を実施していることを証する従事者証をいただいて、活動時に携帯した。定例活動は、8月と9月の水曜日の早朝に行った。活動の範囲は、当面は富士見大橋～大沢橋間に絞った。

③2009年 定例活動は、7月から9月の水曜日の早朝に実施した。この年から、東京都の草刈り¹⁾が年2回から、年3回に変更された。このことは、後でわかったことではあるが、高水敷での駆除にいい効果を生んだ。（図1参照）

④2010年 なかなかオオブタクサの芽生えの密度は減少しなかった。

⑤2011年 はじめて高水敷や法面でのオオブタクサの芽生えの密度が大幅に減少した。

⑥2012年 活動の範囲を広げ、富士見大橋～御塔坂橋までと変更した。7月末までに定例活動は4回実施。自主活動は、11回実施している。

⑦2013年 定例活動（年7回）を続ける。

⑧2014年 オオブタクサ・アレチウリの密度は減り、一応の目標を達したので、年度末（2015年3月）にみたか野川の会を解散した。

表1 みたか野川の会の外来植物駆除活動データ

年	会員数（人）	定例活動回数	自主活動回数	備考
2008	6	9	45	みたか野川の会発足
2009	5	13	13	都の草刈2回→3回に
2010	7	11	21	
2011	8	11	4	オオブタクサが大幅減少

2012	6	8	29	
2013	7	5	19	
2014	6	1	10	

3 特定外来生物法との関係

野川では、外来生物法で特定外来生物に指定されている植物12種の内4種が見られます。アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクです。現時点では、主に、アレチウリ、オオフサモ、オオキンケイギクと要注意外来生物のオオブタクサを駆除活動の対象にしています。そのうち、オオフサモとオオキンケイギクの生育範囲は限定的です。オオカワヂシャは、まだ手がついていません。駆除活動は、特定外来生物法に基づく活動であり、河川管理者の北多摩南部建設事務所の許可をいただき実施しており、除草ゴミは、北多摩南部建設事務所に回収をしていただいています。

4 アレチウリとオオブタクサの駆除について

いずれも1年生の野草で、種は落ちると埋土種子となるため、**開花・結実の前に、除草をして、種を残さないように努めることが大切です。**埋土種子の寿命は、長いようで、少なくとも数年間はあります。実際の作業は、都の草刈が終わった後、①草刈をされていない水際1.5m幅の部分除草します。②都の草刈りのある部分も、埋土種子が残っている場所では、草刈のあと20日ほどたてば、芽生え、ある程度成長するので、その時期に除草すると、比較的楽に根から除草できます。

また、アレチウリは、オオブタクサと比較すると、埋土種子としてより長い期間残っているように感じます。除草しても、また、芽生えてきます。継続的な除草作業が必要なようです。

表2 野川に於けるアレチウリとオオブタクサの生育時期の目安

	アレチウリ	オオブタクサ
芽生え	5月上旬から10月にかけて	4月下旬から9月
成長	7月上旬からよく成長する	7月上旬からよく成長する
開花	8月下旬から10月	8月中旬から9月
結実	9月から11月	9月から10月
草刈り後	1週間ぐらいで発芽が始まる	1週間ぐらいで発芽が始まる

5 駆除活動の効果の確認

5.1 オオブタクサの場合

除草後に、オオブタクサの芽生えの密度の変化を、2008年から5年間測定した。野川の富士見大橋から飛橋間の6か所と比較のために、駆除活動をしていない1か所の合計7

か所である。いずれも草刈りが行われる高水敷または法面である。この結果を図1に示す。いずれもの箇所でも、2011年から、芽生えの密度は大幅に減少した。駆除活動範囲外でも大幅に減少していることから、草刈りの回数が年3回になったことがいい結果を生んだ主要な原因であることを示唆している。

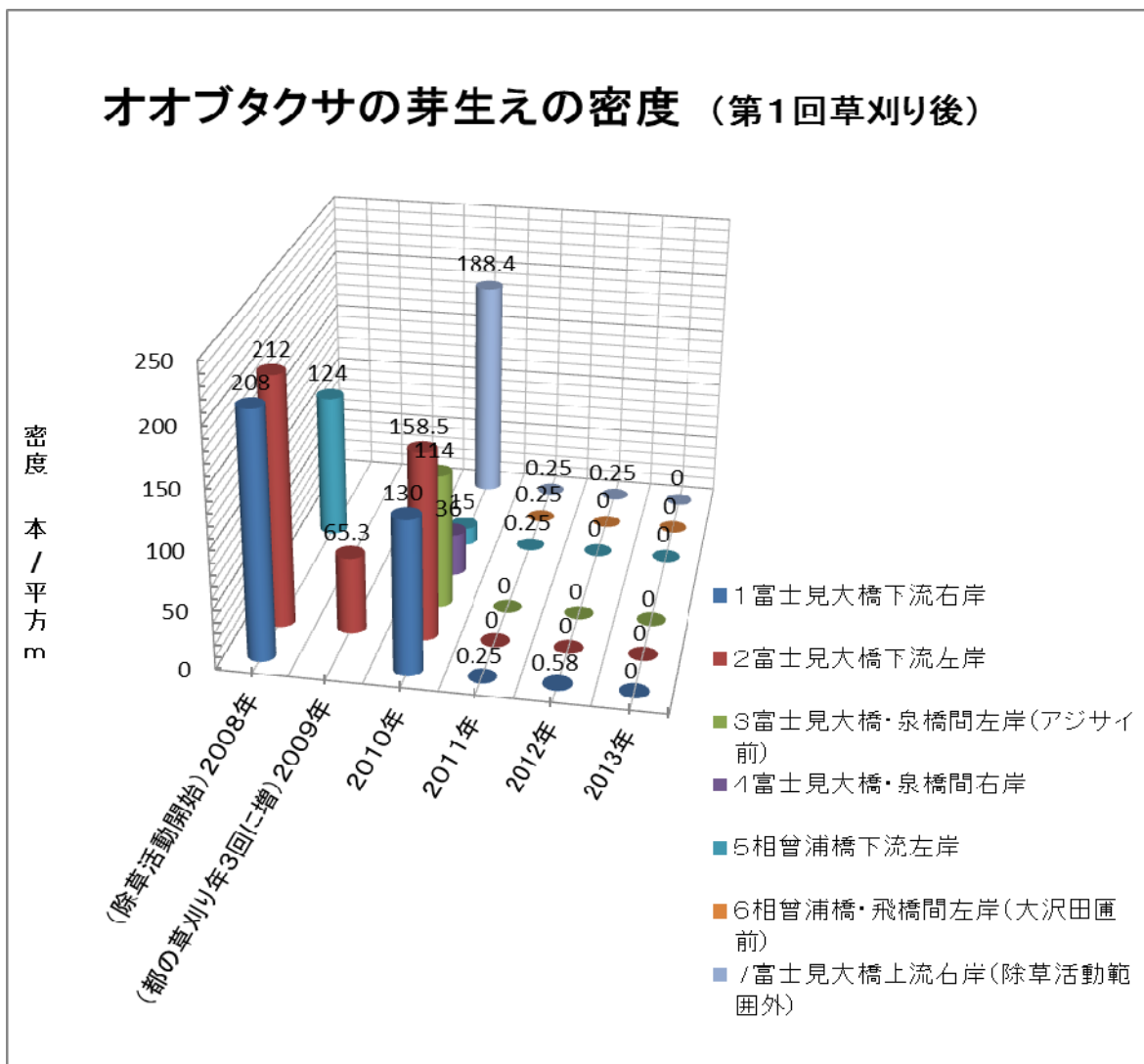


図1 オオブタクサの除草の効果の確認

5.2 アレチウリの場合

アレチウリについては、定量的なデータはもっていない。埋土種子の寿命はオオブタクサに比べて長いように感じるので、除草の効果を見るには、長い期間を必要とするようである。根気よく除草をしていくしかない。

5.3 除草活動前後の風景

除草活動で、いっぱいあったオオブタクサが減少した。



相曽浦橋下流 活動前（2007年9月）



相曽浦橋下流 活動後（2014年8月）

6 作業に当たっての注意事項

- ①小型の除草鎌は、大きく育ったオオブタクサの茎を切ったり、アレチウリのつるを切断したりするには便利である。
- ②厚手の手袋を使うとよい。特にトゲがある果実の付いたアレチウリの除草には、革の手袋が必要です。
- ③川の中に入ることがあるので長靴を使用すること。
- ④花が咲いた後は、除草ゴミは、必ずゴミ袋に入れて、回収をする。

7 参考

- 1) 東京都の草刈は、
 - ①平成18年から平成20年までは、年2回で、第1回目7月、第2回目10月であった、
 - ②平成21年から平成23年までは、年3回で、第1回目6月上旬～7月上旬、第2回目8月中旬～9月中旬、第3回目10月上旬～11月上旬であった。
 - ③平成24年以降は、第1回目5月下旬～6月中旬、第2回目7月下旬～8月中旬、第3回目10月上旬～11月上旬である。
- 2) 「わかりやすい外来植物対策のてびき」：財団法人リバーフロント整備センター発行 2007年2月
- 3) 「アレチウリの防除」：長野県林業総合センターのミニ技術情報 No.15 平成8年
- 4) 「アレチウリ駆除のノウハウ」：千曲川河川事務所 千曲川における外来種
- 5) 「オオブタクサ、闘う 競争と適応の生態学」 鷲谷いずみ著 1996 平凡社
以上